



想いを引き継ぎ、地域を守る取組の中核となる

滝・金屋農業振興会（京都府与謝野町）

- 滝・金屋地区は、京都府北部の日本海に面する与謝野町の南西部に位置する中山間地域である。農地のほとんどは水田であり、水稻や大豆を中心に営農を行っている。
- 滝・金屋農業振興会は、多面的機能支払交付金及び中山間直接支払を活用し、農地保全に取り組んできたが、人口減少が激しく、省力化を行うことが必須になっていた。
- 持続可能な地域づくりと農業振興による地域活性化を目指して平成27年に設立された「与謝地域山村活性化協議会」において、令和4年から農村RM0事業に取り組む。
- ドローンによる農薬散布や直播によって、農作業の省力化に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・ 取組面積：104ha
(田 99.5ha、畑 4.4ha)
- ・ 資源量：水路 46.7km、農道 19.8km、
ため池 0箇所
- ・ 主な構成員：農業者、農業組合、自治会、よさのうみ福祉会、
(有)あっぷるふぁーむ、
(有)誠武農園 など
- ・ 交付金 約8百万円 (R6)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

地域の状況や課題

- 旧与謝村（与謝地区・滝地区・金屋地区）の人口は現在約1200人。10年前から2割程度減少している。約30年後には、現在から4割程度減少することが想定され、大きな課題となっている。
- 農業などの地域産業の労働力不足、人口減少による購買力の低下により、地域の疲弊が加速していくことが予測される。

農村RM0の取組

- 『少なくなる人口で農地保全と農業振興を図る』、『魅力ある農村づくりを進める』ことを目的に、農村RM0形成推進事業に取り組む。
- 滝・金屋農業振興会事務局は、「与謝地域山村活性化協議会」の事務局も担っており、農村RM0形成推進事業の実施に向けて、各組織との調整役となっている。

滝・金屋農業振興会の取組

- 滝・金屋農業振興会の設立時には、当時30代の若手も参加。経験を積み現在の中心メンバーとなっている。
- 滝・金屋農業振興会は「与謝地域山村活性化協議会」事務局を担いながら、農用地保全、地域資源活用を担当。
- 構成員である地元企業の(有)あっぷるふぁーむ、(有)誠武農園は、地域農業の担い手として農地を保全。
- (有)あっぷるふぁーむでは、滝・金屋農業振興会が購入したドローンを活用した農薬散布や、直播栽培の実証に取り組んでいる。
- 社会福祉法人よさのうみ福祉会と農福連携し、多面的機能支払交付金の活動への参加、農業や加工品製造を行っている。

取組の効果

- 地域の人材を活用し、地図情報システム(GIS)を整備。誰がどの農地を耕作しているか瞬時に把握可能に。耕作者の農地の意向も反映でき、地域計画作成にも役立っている。また、長寿命化で整備した時期や事業費もGISにプロットし、見える化することが可能に。
- ドローンの有効性が確認でき、組織内で免許を取得し今後本格的に取り組んでいく方針を定めることができた。



Step1 (S54～S61)

府営ほ場整備事業

- ・農地、道路等のインフラを整備。
- ・換地等を行うために話し合いが行われ、地域で合意形成を行う基盤ができた。

昭和一桁生まれの人が中心

Step2 (H12～H21)

農地・水・環境保全対策 中山間直接支払制度

- ・各集落で農地・水・環境保全向上対策、中山間直接支払制度に取り組む。
- ・交付金を地区内で活用するために話し合いが行われた。

Step3 (H24)

滝・金屋農業振興会の 設立

- ・昭和10年代生まれの人がリーダーになり、地区の連携を模索。
- ・京都府独自の「命の里」事業を活用し、平成22年に滝地区と金屋地区の中山間組織を一本化。
- ・平成24年に農地・水の組織も合併し、滝・金屋農業振興会が設立。

昭和10年代生まれの人が中心

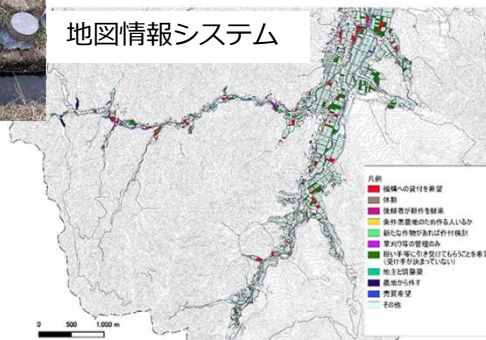
滝・金屋農業振興会

- ・多面的機能支払交付金、中山間直接支払だけでなく、人・農地プラン、農地・中間管理事業、農村型小規模自治推進事業、地域計画を実施。
- ・収益事業としては、森の直売所の運営、よさのやさいの駅（道の駅）の運営も行っていた。

水管理システム



地図情報システム



それぞれの取組を行う際に地域内で話し合いが行われており、地域内で合意形成を行う基盤ができていたため、農村RMO形成支援事業にスムーズに取り組むことができた。

農村RMO形成支援事業の主な取組

『少なくなる人口で農地保全と農業振興を図る』、『魅力ある農村づくりを進める』ための調査研究を実施。

【地図情報システム(GIS)の整備】

○誰がどの農地を耕作しているか瞬時に把握可能に。耕作者の農地の意向も反映でき、地域計画作成にも役立っている。

○長寿命化で整備した時期や事業費を見える化

○独居老人の居住地や、空き家の所在地等の情報を一元化

【水田の省力化の取組】

○IoTネットワーク網の整備によるスマート農業の実践。

○ドローンによる農薬散布や見回り時間の削減

【オンラインサイトの構築】

○地域の特産品をweb上で販売可能に。

当時の若者も役割を与えられ参加

課題

人口減少、高齢化が著しい中、農地保全を行っていくために新たな取組を行う必要がある。

昭和50年代生まれの人が中心

Step4 (R4～R6)

農村RMO形成支援事業に 取り組む

- ・『少なくなる人口で農地保全と農業振興を図る』、『魅力ある農村づくりを進める』ことを主目的。
- ・滝・金屋農業振興会は、「与謝地域山村活性化協議会」の事務局として中心を担う。

今後の展望

- 多面的機能支払制度や中山間直接支払制度を活用し、農地保全の取組を進める。
- 農村RMO形成支援事業での成果を生かし、ドローンを活用した省力化（農薬散布、追肥、直播）を本格化していく。